



[エマオ通信]

No.15 (10月15日発行)
発行人 高良 研一(会長)
編集人 稲川 仁(事務局長)
発行者 木村 均(書記)

日本バプテスト連盟全国壮年会連合 「伝道者養成と教会形成を担う働き」

25/26 年度主題: 「私と教会が元気になるには」

聖句: わたしたちの心は燃えていたではないか (ルカ 24:32)

<メッセージ> 「今こそ、救いの日。」

藤野 慶一郎(嬉野教会牧師)

「今や、恵みの時、今こそ、救いの日。(Ⅱコリント 6 章 2 節後半)」

今伝道は難しいと言われます。本当にそうでしょうか? 嬉野教会は日本一教会が少ない佐賀県にあります。8 年前救われた方が今は 81 歳。「牧師先生、太良町まで来て下さいますか」と願われたのが 2 年前。キリスト教とは無縁の町のご自宅で家庭集會をすることに。すると地元で高齢の方々が次々来会、毎月 5 名程の求道者が楽しく集います。

地元の小さな大学で唯一人クリスチャンである私の娘は K G K (キリスト者学生会) として学内聖書研究会を立ち上げ、未信者の友 5 ~ 6 名が毎回集って 3 年目です。彼らの方から「楽しかった〜! 勉強になったし。次はいつ?」と言われるそうです。

今伝道は難しいと言われます。本当にそうでしょうか? 日本でクリスチャンは宣教開始以来常に弾圧の対象です。四百年程前西九州を中心とした迫害は最も苛烈でした。明治初期には長崎四番崩れ。明治後期には内村鑑三不敬事件や訓令十二号事件。昭和前期、聖書に従い兵役拒否した者は投獄。植民地化した地域に数多と建てた神社に拝礼を強制、拒否したクリスチャン達を拷問し殺害。ホーリネス弾圧では獄中で何人も殉教しました。

教育基本法改定後の今、小中学校で神道文化教育が開始、与党自民党は憲法改正が悲願。個人の権利を制限し神社神道に基づく新憲法を目論む参政党が躍進。伝統文化を名目に政府と地域からのキリスト教弾圧を懸念します。

もし歴史が繰り返すとしたら今後かつてのように、神社を拝礼しないクリスチャンは世間から叩かれ教会は逮捕者を出し解散させられるでしょう。一方、保身の為神社を拜む教会の中から弾圧する側に回るクリスチャンが現れ、教会は分断され傷むでしょう。迫害する者の為にとりなし祈れるか真の信仰と愛が試されます。

さて今。伝道は難しいでしょうか? 楽しく伝道できる今恵の特殊な時代は、現行憲法がまだ在る間、もう少し続きそうです。



嬉野教会

2024 福音聖会

<証①> 「主と共に歩む」

鈴木 文雄(赤塚教会)

私は現在 86 歳です。バプテスマは約 70 年前、高校 3 年生の秋、日本バプテスト横浜教会の(故)時田信夫牧師から授かりました。イエス様との出会いは、横浜の関東学院三春台校、中学一年生の時でした。高校時代は、日本ハイスクール YMCA (ハイ Y) の会員となり、課外活動に熱中致しました。大学時代は、4 年間、教会学校の教師を務め、2 年生から 3 年間、国際キリスト教大学 ICU 教会の学生代表として役員を務めました。社会人となってからは、40 年間日本の船会社で、主に、原油や製品を輸送するタンカー業務に従事致しました。その後の 20 年間は、タンカーの仲立業に転身、世界中の石油会社、船会社、商社との取引を行いました。家族は家内と 1 男 2 女の 5 人暮らしでした。家内は高校時代に ICU 教会で(故)古屋安雄牧師からバプテスマを授かりました、次女は高校時代に日本キリスト教団下石神井教会で高橋一(はじめ)牧師(現在札幌在住)からバプテスマを授かりました、娘は生まれつき脳と心臓に欠陥を持つ障害児でした。大学病院で 20 歳までの生命と宣告されました。家内は娘の治療に奔走する日々でした、私は海外出張が多く、家内を手伝えず苦しい日々でした。

1979 年 6 月に板橋区成増に転居致しました。主の導きにより赤塚バプテスト教会の礼拝に家族全員で出席し翌年秋に赤塚教会員になりました。その後約 40 年間教会の財務(会計)のお手伝いをさせていただきました。家内は 1992 年春、血液ガンを発症、10 年間の闘病生活後、2002 年春に召天致しました。私は、家内の病状が悪化した 2000 年の春、家内の看病のため、海外業務から撤退して、母校大学の職員となり、創立 50 周年の記念事業のお手伝いを 4 年間致しました。娘は現在 55 歳になりました。札幌在住、札幌バプテスト教会員です。家内召天後の生活は教会の皆様の祈りに支えられて、主とともに歩む日々です。感謝。「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせられないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」第一コリント、10:13 一口語訳



<証②> 「連合内教会の課題と向き合う」

川内 誠（西南学院教会）

4月から福岡地方連合で壮年会副会長と神学校献金推進委員を、次年度からは全国壮年会連合の監査をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

九州内特に地方の教会では高齢化が進み、自分で教会に行くことも困難な方々も多く、若い教会員は殆どいません。そのため教会での奉仕者を確保すること、無牧師となっても牧師を招聘すること、さらに経済的に教会を維持することも困難になっております。

福岡地方連合も多少の時間差があっても、全ての教会で高齢化が進み、無牧師教会も増えております。また、教会間の課題を共有する仕組みや教会間交流も一部を除いてほとんどありません。そこで連合壮年会では、交流をテーマにまず役員教会同士で交流会を始めました。そこでの意見交換等を通じて各教会の課題を把握し、協働で対応すべきもの、最終的に連盟で取組むべきものを抽出できればと考えています。また昨年度から取組んできた信徒説教者の養成や信徒説教者の教会間共有を図るための模索も続けていきたいと思います。

そして、何といても連合壮年会の活動の柱は、西南大学神学部との交流や神学生への支援です。6月に「神学校週間を覚える集い」を開催し、神学校と神学生の現状を全国に発信しました。さらに諸物価高騰の折、新米が出回った10月1日に米10kgを神学寮に贈呈しました。（写真参照）今後とも神学生に寄り添った取組みを行って参ります。

さらに、何といても次代の教役者を如何に発掘・育成していけるかです。私も神学校献金推進委員として、7月に全国の委員と意見交換を始めたところです。推進委員会では色々な意見が出ましたが、私は若い世代が牧師という職に魅力を感じるかだと思います。現役の牧師の中には様々な課題に果敢に挑戦し、従来の牧師の枠にとらわれないで、地域に密着した活動の場を自ら作り出し、収入を確保しつつ地域課題の解決に取り組んでいる方々は既におられます。まず、牧師はこうあるべきだという既成観念を捨て牧師像を考え直してはどうでしょうか。今後も献身者を生み出していくためには全国の壮年の方々の経験や行動力が必要です。私たちの力を結集・協力し、全国の教会をさらに活性化して行こうではありませんか。



神学寮へお届け

<今後の歩みと働きのための祈り>

- ◎ **全国壮年会連合オンライン研修会 10月18日(土)15:00-16:30 参加費無料 どなたも参加できます。**
＜タイトル＞ 私と教会が元気になるには ～ エマオからエルサレムへ ～ ID: 405 896 1393 パス: sonen
- 講師 田坂元彦 先生（横浜ニューライフ教会牧師、日本バプテスト連盟理事） 聖書箇所 ルカ 24：32～36
- ◎ 11月1日(土) 奨学金委員による西南学院大学神学部の神学生の面談のためにお祈りいたします。少しでも多くの献身者が起こされますように。
- ◎ 福井教会への第1回協力伝道派遣チーム（伝道隊） 11月15-16日 高良会長、稲川事務局長（2日のみ）、高井会計担当役員の主にあつての福井教会での交わりと働きのためにお祈りください。
- ◎ 11月8日(土)（10:30-14:00）第2回地方連合壮年会等代表者会議（オンライン）各地区の壮年会長（代務者含む）の参加により、今後の壮年会連合の在り方についての検討委員会設置を目指したいと思います。
- ◎ 西南学院大学神学部、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校の神学生の良き学びの為に。卒業後の歩みが豊かに導かれますように。そして、これらの神学校で学ぶ献身した神学生が起こされるように。更に特色と強みを生かした三つの神学校での働きを通じて、諸教会・伝道所の各教会員の学びが豊かに祝されますように。特にオンライン受講やスクーリング等により、信徒説教のための学びを深め、無牧師の教会・伝道所等での奉仕が豊かにできますように。信徒一人ひとりの献身から「教役者の働きを担う献身」へ導かれますように。
- ◎ 来年8月6-8日の西南学院大学での第一回バプテストフェスティバルに共催しておりますので、皆様のご参加を願っております。なお、初日の午前11時から昼に掛けて、全国壮年大会を短く開催しますので、併せてご参加を期待しております。

<お願い>

- それぞれのところで主にあつて頑張っておられる方々やその働きをご紹介ください。このエマオ通信でその証を紹介してまいります。
- 第1回壮年大会（1965年日白ヶ丘教会他）開催以来の大会資料をお持ちの方をご紹介くださいますように。